

各アクションプランの事業評価と実施状況

【評価の仕方】	a	特に成果が高い。
	b	H26年度事業計画を概ね達成している。
	c	H26年度事業計画が達成できなかった。未着手であった。

＜施策展開の方向Ⅳ 家庭の教育力を高め、地域の教育力を生かす＞

基本施策 具体施策	事業番号	アクションプラン	担当所管	H26年度事業計画	H26年度事業実績（見込）	自己評価						H27年度（最終年度）事業計画	備考 ・自己評価が【a】や【c】になった理由、その対応 ・自己評価が上がった理由 ・事業が完了・統合等、大きな変化があった理由
						21	22	23	24	25	26		
(9) 24 放課後等の子どもの居場所づくり	(82)	放課後子ども教室の推進	生涯学習振興課	前年度に引き続き、週1回程度、全小学校に放課後子ども教室を設置していく予定である。	全小学校に放課後子ども教室を設置し、年間21日/校実施した。	c	b	b	b	c	c	全小学校に放課後子ども教室を設置し、年間23日/校実施する。	運営を担う地域協力者の高齢化や人材不足が大きな課題となっていることを踏まえ、平成26年度は、コーディネーターの複数配置や相談体制の整備、事例発表会の実施など新たな支援策を講じたが、目に見えての成果を出すには複数年必要かと考える。今後は、既存の支援策を継続しつつ、新たな支援策としてボランティアをしたい人とボランティアを必要とする子ども教室を結びつける登録制度の導入などにより、活動の要となる人材確保に努める。
	(83)	子どもルームの整備・運営	健全育成課	施設改善5か所の整備を予定している。 ・小中台南小、山王小、磯辺、 ・花見川第一小（仮設）、花見川第三小	施設改善4か所の整備を実施した。 ・小中台南小、山王小、磯辺、 ・花見川第一小（仮設）	a	b	b	b	b	b	施設改善4か所の整備を予定している。 ・幸町小、花見川第一小 ・有吉小、泉谷小	
	(84)	公民館での子どもたちの学習や活動の場の確保	生涯学習振興課	・通年実施（週末、小・中学校の長期休業期間） ・公民館主催による各種少年対象事業（工作教室、料理教室、科学教室等）を実施するとともに、公民館利用団体による各種体験教室を実施する。	公民館主催による各種少年対象事業（工作教室、料理教室、科学教室等）を実施するとともに、公民館利用団体等による各種体験教室を実施した。 講座数（主催事業） 248講座 参加者数 5,641人	b	b	b	b	b	b	公民館主催による各種少年対象事業（工作教室、料理教室、科学教室等）を実施するとともに、公民館利用団体等による各種体験教室を実施する予定。	
(9) 25 地域人材を活用した学校支援	(88)	特別非常勤講師の配置	指導課	優れた知識や技術を有する社会人を派遣し、学校教育の多様化、活性化を図る。	小学校に4人、中学校に1人、優れた知識や技術を有する社会人を派遣し、学校教育の多様化、活性化を図った。	b	b	a	b	b	b	小・中合わせて5人の講師を派遣している。優れた知識や技術を有する社会人を派遣し、学校教育の多様化、活性化を図っている。	
	(91)	学校・家庭・地域連携によるまちづくりの推進	指導課	前年度に引き続き、各地域の特色ある活動を通して、児童生徒の地域に対する愛情と誇りを育む。また、広報活動等を通して地域や近隣の高等学校への働きかけにより、事業の趣旨についての理解を深め、参加者数の向上をさらに図る。	各中学校区ごとに、小・中学校の児童生徒が中心となり、保護者、地域の方、高等学校の生徒の参加も促し、相互に協力しあい、地域をより良くするための特色ある自治的活動を通して、児童生徒の地域に対する愛情と誇りを育んだ。また、広報活動等を通して地域に事業の趣旨についての理解を深め、参加者数の向上を図ることができた。（参加校数：市内全小中学校さらに3高等学校参加、参加延べ人数：地域・保護者・児童生徒計92,049人）	a	b	b	b	b	b	前年度に引き続き、各地域の特色ある活動を通して、児童生徒の地域に対する愛情と誇りを育む。また、広報活動等を通して地域や近隣の高等学校への働きかけにより、事業の趣旨についての理解を深め、参加者数の向上をさらに図る。	
	(186)	科学フェスタの開催	生涯学習振興課	市民が日常生活の中で科学・技術を身近に感じることができる総合的な科学・技術の祭典「科学フェスタ」を実施する。多種多様なイベントを実施し、出展者・来場者・主催者それぞれが積極的に交流できるようにする。	メインイベントでは、大学等教育機関やNPO、企業、研究機関等との連携により、来場者数16,362人、出展団体数51団体と、ほぼ昨年並みの規模による実施であった。また、サテライトイベントとして、347イベントを実施した。新たな取り組みとして、SNSの活用や、各ブースでの掲示板設置により、来場者と出展者の交流を図った。	-	-	-	a	a	b	市民が日常生活の中で科学・技術を身近に感じることができる総合的な科学・技術の祭典「科学フェスタ」を実施する。多種多様なイベントを実施し、出展者・来場者・主催者それぞれが積極的に交流できるようにし、サイエンスネットワークを強化する。	
	(187)	特別教室開放の推進	生涯学習振興課	既開放校の4校に加えて、26年10月から、新たに、中央区及び若葉区の小学校各1校の特別教室を開放する。	既開放校の4校に加えて、26年10月から、新たに、中央区及び若葉区の小学校各1校の特別教室を開放した。	-	-	-	b	b	b	引き続き、6校を開放する。	
(9) 26 子どもの安全を見守る活動の推進	(92)	学校セーフティウォッチの推進	学事課	学校セーフティウォッチャーの登録者数を増加させるとともに、スクールガード・アドバイザーの配置及び連携の強化、講習会の開催などにより、登録者への支援を行う。学校セーフティウォッチを推進することにより、子どもたちの登下校時の安全を確保する。	学校セーフティウォッチャーによる登下校時の見守り活動を実施し、児童・生徒の安全確保を図った。 ○学校セーフティウォッチャーの登録拡充 登録者 26,855人（前年度比1,584人増） ○学校セーフティウォッチャー講習会開催 回数 3回 参加者 351人（3回合計） ○スクールガード・アドバイザーの配置 委嘱数 13人 ○学校適正配置に係る安全指導員を新宿小学校区に配置	b	b	a	b	a	a	学校セーフティウォッチャーによる登下校時の見守り活動を実施し、児童・生徒の安全確保を図る。 ○学校セーフティウォッチャーの登録拡充 回数 3回 ○スクールガード・アドバイザーの配置 委嘱数 13人 ○統合安全指導員を幸町小学校区に配置	PTA単位で登録する学校が、増加したため。
	(93)	「こども110番のいえ」設置の推進	健全育成課	各中学校区青少年育成委員会、小学校や中学校PTAも含め、既存の家庭や企業には引き続きお願いすると共に新たな協力家庭を増やすよう努力をしていく。	各中学校区青少年育成委員会が主体となり、登録拡大を図った。また、地域のニーズに合わせ、作製する「こども110番のいえ」のプレートを紙製からプラスチック製に変更したので、徐々にプラスチック製のプレートに替えていく。	b	b	b	b	b	b	各中学校区青少年育成委員会が中心となり、登録されている家庭や店舗等には引き続きお願いすると共に、新たな協力家庭等を増やすよう努力をしていく。	

基本施策 具体施策	事業番号	アクションプラン	担当所管	H26年度事業計画	H26年度事業実績（見込）	自己評価						H27年度（最終年度）事業計画	備考 ・自己評価が【a】や【c】になった理由、その対応 ・自己評価が上がった理由 ・事業が完了・統合等、大きな変化があった理由
						21	22	23	24	25	26		
(10) 27 地域ぐるみによる子どもの健全育成の推進	(94-1)	青少年育成活動の推進	健全育成課	55中学校区において、同様の活動のほかに、青少年育成活動における子どもたちの企画運営が少しでもできるような青少年主体の活動を推進できるような体制を築く。	各中学校区ごとに、独自の青少年健全育成活動を展開し、環境美化活動や浄化活動、点検・補導活動等を行い、幅広い年代の地域の人間が協力をして、青少年の健全育成を行った。	b	b	b	b	b	b	各中学校区青少年育成委員会が、地域の青少年育成団体と連携を図りながら、補導点検活動、子供向けのレクリエーション、研修会等を実施し、地域ぐるみによる青少年の健全育成を推進する予定である。	
	(94-2)	子どもに信頼される大人に関する調査研究	こども企画課	子どもの居場所となる2箇所の「こどもカフェ」モデル運営の継続及び3年間のモデル運営の検証を行うとともに、今後のこどもカフェの在り方について検討を行う。	子どもの居場所となる2箇所の「こどもカフェ」モデル運営を継続し、こどもカフェの在り方を検討した結果、10月から1箇所の運営を地域の団体へ移行することができた。 ・「こどもカフェ」高洲と園生の2箇所で年間144回開催 ・「こどもカフェ」地域連絡会議を各地域年1回実施年間2回開催 ・「こどもカフェ」運営事業者連絡会議を年2回実施 ・「こどもの参画・信頼される大人と子どもの居場所」公開講座1日間開催	-	b	b	b	b	b	子どもの居場所となる2箇所の「こどもカフェ」モデル運営を継続する。また、子どもの居場所の全市展開に向けて、地域のコミュニティの場となる公民館活用との連携を図りながら、子どもの居場所に関する運営方針を策定する。	
	(95)	悩みや不安を抱えた青少年への支援	青少年サポートセンター	悩みや不安、問題を抱える少年に対応する専門の非常勤嘱託職員を配置し、立ち直りに向けた支援や相談活動を継続して実施する予定である。 なお、青少年の立ち直り支援を目的とした青少年サポート事業については、青少年の居場所づくりの一つとして今後も事業の推進を図る予定である。	・悩みや不安を抱える青少年へ来所や電話等による支援を行った。 ・サポート事業 少年数(27人) 来所回数(445回) ・電話相談件数(284件) ・来所相談件数(265件)	b	a	b	b	b	b	・悩みや不安を抱える青少年へ来所や電話等による支援を行う。	
	(96)	補導活動の実施	青少年サポートセンター	青少年の非行防止のためにJR千葉駅周辺(中心街)及び地域の繁華街等を巡回する街頭補導活動を継続して実施する予定である。 なお、非行等の問題への対応については、街頭補導等を通じ、千葉県警察少年センターや関係機関・団体との連携をさらに強化し充実させていく予定である。また、県下一斉街頭補導や列車補導にも参加予定である。	1,906回にわたる街頭補導の実施し、延べ1,061人の少年を補導した。また、非行抑止のための声掛け人数は7,061人であった。	b	b	b	b	b	b	千葉駅周辺及び地域の繁華街や公園、ショッピングモール等を巡回する街頭補導の実施。	
	(97)	青少年の日、家庭・地域の日の活動の推進	健全育成課	9月の第3土曜日に「青少年の日フェスタ」を実施する予定である。また、「青少年の日」「家庭・地域の日」の関連事業の実施にあたり、庁内関係各課で組織する「青少年の日」及び「家庭・地域の日」事業推進会議を年1回開催予定。	9月の第3土曜日に「青少年の日フェスタ」を開催した。また、「青少年の日」「家庭・地域の日」の関連事業の実施にあたり、庁内関係各課で組織する「青少年の日」及び「家庭・地域の日」事業推進会議を年1回開催した。	b	b	b	b	b	b	9月の第3土曜日に「青少年の日フェスタ」を開催する。また、「青少年の日」「家庭・地域の日」の関連事業の実施を庁内関係各課に依頼し、実施状況を取りまとめるとともに、関係機関・団体で組織する「青少年の日」及び「家庭・地域の日」事業実行委員会を年1回開催する。	